

BOOK 本の紹介

異常気象と人類の選択

江守正多著 角川マガジンス(2013年9月)
定価800円(+税) ISBN978-4-04-731622-5

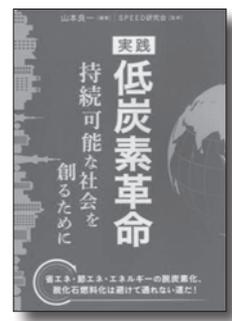
地球温暖化問題は単なるブームではない。現在進行形のこの問題にどう向き合うのかを問う一冊。社会問題としての地球温暖化問題における議論の対立構造を俯瞰して捉え、リスクを整理。人類に残された選択肢を考える。「将来の人類のことをわれわれは考えることはできるか」という著書の問いに、一人ひとりの答えが求められている。



実践 低炭素革命 持続可能な社会を創るために

山本良一編著 生産性出版(2014年12月)
定価2,000円(+税) ISBN978-4-8201-2035-3

2014年6月に箱根で開催されたSPEED研究会(エコイノベーションとエコビジネスに関する研究会)夏季セミナーをまとめたもの。低炭素社会の実現に向けた省エネ・節エネとエネルギーの脱炭素化・脱化石燃料化を中心に、幅広い分野の専門家による具体的提案が記されている。科学的な検証が豊富にあり、データ集としても役立つ。



今こそ考えよう！ エネルギーの危機 (全5巻)

藤野純一総監修・著者 文溪堂(2012年3月)
定価2,900円(+税) ISBN978-4-89423-72-8ほか

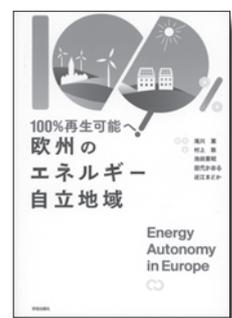
既存エネルギーから再生可能エネルギーまで網羅した解説書。エネルギー大量消費型生活を見直す視点も提示され、これからのエネルギーのすがたと、それを実現させるためのしくみづくりについても言及。国内外の事例紹介を通して、持続可能な社会づくりを実現していくには何を考え、どう行動していけばいいかを示唆している。



100%再生可能へ！ 欧州のエネルギー自立地域

滝川薫編著 学芸出版社(2012年3月)
定価2,200円(+税) ISBN978-4-7615-2530-9

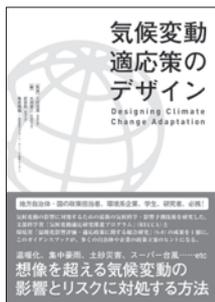
地域で使うエネルギー量を100%地域の再生可能エネルギーで賄おうという、自立運動がさかんに行われ、実現していく欧州。この勢いは2011年の福島第一原発の事故を経てダイナミズムを増した。困難とも思える事業の実践を、欧州の各地域で同時多発的に起きたエネルギー自立の事例を通して学び、日本の未来を考える契機となり得る本。



気候変動適応策のデザイン Designing Climate Change Adaptation

三村信男監修 クロスメディア・マーケティング(2015年3月)
定価1,500円(+税) ISBN978-4-8443-7409-1

今世紀に入り、気候変動への適応策が注目を集めている。この適応策基本方針の検討・策定の最前線にたつ自治体のために方針の立案手順から科学技術情報の活用方法まで、策定担当者のヒントとなる情報をまとめている。先進地域でのケーススタディも掲載され、どのような適応策を検討すべきか具体的にイメージすることもできる。



エネルギーの世界を変える。 22人の仕事

諸富徹監修 若手再エネ実践者研究会編著 学芸出版社(2015年4月)
定価1,800円(+税) ISBN978-4-7615-1350-4

FIT制度の導入によりエネルギーを選べる時代になった。エネルギーの選択はどんな暮らしを選ぶかに直結する。「自然エネルギー」という選択に活路を見出した22人の手記。地域との協働で作る、全く新しいエネルギーの世界で生きる覚悟を決めた彼らの熱意が伝わる。行政や研究機関、地方銀行などのサポートのあり方の参考にも。

